

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年12月1日発行 (毎月一回発行) 第695号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

『犠牲』との出会い 柴崎 聡

対談

キリスト教本屋大賞2015
大賞受賞記念対談

『エッセイの木』 沢 知恵+池谷陽子

本・批評と紹介

M.ハルバータル 著/志田雅宏 訳

書物の民 勝又悦子

近藤勝彦 著

いま、震災・原発・憲法を考える 森島 豊

楠本史郎 著

『中澤正七』 高橋 潤

森重ツル子 編

八木重吉詩撰集 祈りのみち 林 あまり

ジュセッペ 三木 一 著

佐藤弥生 訳、監修 ゲオルギイ 松島雄一

師父たちの食卓で 大頭眞一

阿久戸光晴 著

専制と偏狭を永遠に除去するために
松原 望

大塚野百合 著

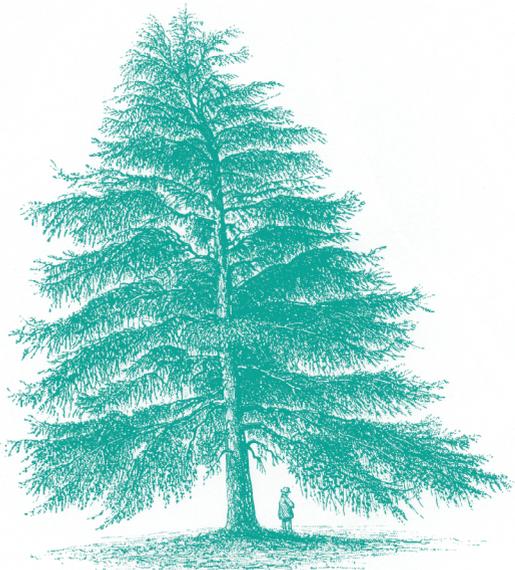
スザンナ・ウェスレーものがたり
深町正信

本屋さんが選んだお勧めの本

既刊案内

書店案内

12 DECEMBER
2015



日本人の心に届く福音を探求した井上洋治神父の思索をたどるシリーズ

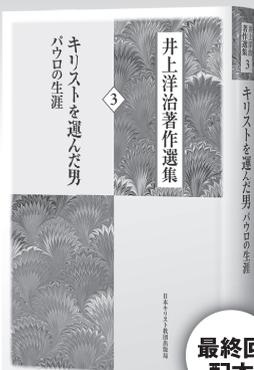
井上洋治著作選集3 全5巻、完結!

キリストを運んだ男 パウロの生涯

山根道公 編・解題 若松英輔 解説

キリストの福音を異邦世界に伝えるために苦闘した、パウロの生涯と思想をたどる。新たに解題・解説に加え、遠藤周作氏との対談などを収録。

◆A5判 上製・248頁・2,700円



私たちが
お薦めします

渡辺和子(ノートルダム清心学園理事長)
佐藤 優(作家・元外務省主任分析官) / 木崎さと子(作家)

シリーズ好評発売中
各巻 2,700円

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 日本とイエスの顔 | 4 わが師イエスの生涯 |
| 2 余白の旅—思索のあと | 5 遺稿集「南無アッパ」の祈り |

聖書人物おもしろ図鑑 旧約編

大島 力 監修 古賀 博 / 真壁 巖 / 吉岡康子 編
金 斗 鉉 イラスト

イラスト図解でわかりやすい!

旧約聖書に登場する人物の簡潔な紹介や背景説明、地図や系図によって、1冊で旧約聖書の世界が一望できる。大人にも役立つ子どものための旧約聖書入門。 ◆四六判 並製・112頁・1,620円



イベントのご案内

『エッセイの木』キリスト教本屋大賞受賞記念イベント 開催決定!

池谷陽子 沢知恵 エプロンシアター & ミニコンサート

2015年
日時 11/23 (月・祝) 14時~15時30分

会場 日本キリスト教団 洗足教会
入場無料 ※申し込み不要

サイン会あり

『エッセイの木』の物語とともに人形劇と音楽でクリスマスの喜びを味わいましょう!



詳しくはホームページをご覧ください



出合い・本・人

サクリファイイス

『犠牲』との出合い——柴崎 聡

或る本の帯に推薦の言葉をいただくために、柳田邦男さん宅を訪れたのは、一九九四年のことである。京王線の聖蹟桜ヶ丘からタクシーに乗った。ご自宅の応接間で、初めて素顔の柳田さんにお会いした。仕事は程なくして終わり、いとまごいをしようとしていると、二冊の雑誌を手渡された。

それが月刊誌『文藝春秋』に二回に分けて連載された「犠牲」^{サクリファイイス}が息子・脳死の11日」であった。お礼を述べてお宅を辞し、その帰宅途中で、その雑誌を読み続けた。ただならぬ内容であった。次男洋二郎さんの死に至る顛末が書かれていたからである。

情愛に押し戻されることなく、冷静に記述されていたのは、ノンフィクション作家としての幾星霜を経た厳しい鍛練があったからに違いない。それにしても身内の自死という事件である。

内心に遣り切れなさの風雨が吹きすさんでいる時にこそ、作家は言葉を通して事に真向かわねばならなかったのか。膨大な喪失感に同行しながらも書くことよって、平安への階^{まゐり}を辛うじて登ることができたのか。

翌年、「脳死、私の提言」という論考を加え、大幅に加筆がなされて、単行本『犠牲』^{サクリファイイス}が息子・脳死の11日』が上梓される。

私は大学で、「キリスト教と文学」という公開講座を持っていく。今春、講座のために『犠牲』を再読した。奇蹟のように生み

出された作品であると実感した。それは私の生半可な生き方を揺さぶる力を持っていた。そして、気づいたのである、この作品は、父と息子の三層構造を持っている、と。

洋二郎さんのご遺体を病院から引き取って、ご自宅の居間に安置したとき、テレビでたまたま映画「サクリファイイス」を放映していた、という。ロシア人アンドレイ・タルコフスキー監督のもとで制作されたスウェーデン映画である。書名はそれにも由来している。

英語の sacrifice は、「神聖 (sacri) にする (fice)」という意味で、そこから「生贄、捧げ物、犠牲」の意味も生まれてくる。

三層構造とは、まず表層にあると思われるタルコフスキー監督の映画「サクリファイイス」に登場する父と子、その深層にある『犠牲』の作者である父と陰の作者である息子、最深層にある父なる神とその息子であるイエスという構造である。

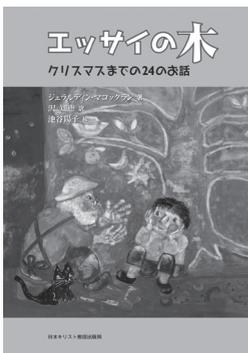
「犠牲」とは優れて、誰かの身代わりになって死を肯定的にも否定的にも受け入れることである。奇しくも成立したその構造は、意図的でも技巧的でもなく、痛ましい経験の起伏を通してしか与えられないものであった。『犠牲』はこうして、私の魂の貴重な一書となったのである。

(しばさき・さとし 詩人、大学講師)



『エッセイの木』 キリスト教本屋大賞2015 大賞受賞記念対談

ジェラルディン・マコックラン著
A5判158ページ 1,944円(税込) 日本キリスト教団出版局
イエスさまの系図を表すエッセイの木を彫るおじいさんの前に突然、男の子が現れる。お話をせがまれ、最初はいやがるおじいさんだったが、ひとつひとつ語り始める。天地創造からイエスさまの誕生に至る神さまの救いの物語を。



シンガーソングライター。幼いころより韓国、アメリカ、日本で育ち、3歳よりピアノを弾く。東京芸術大学在学中に歌手デビューし、アルバム「谷川俊太郎をうたう」など多数のアルバムCDを発表。

沢知恵 (訳) さわともえ



撮影協力・教文館 撮影・スタジオCAC

池谷陽子 (絵) いけのやまこ

版画工房の助手をしながら、動物園の飼育係のアルバイト等をする。北海道宗谷にて酪農を17年間、夫と共に営む。子育てのかたわら、その生活を絵本にする。絵本に「こうしがみつけた」「だじすきセレストピア」「ひつじさんあそんで」など多数。

原著を手にして
沢 とにかく描写がドラマチックで、旧約聖書ってこーんなにももしろいんだ、と初めて思いました。五感をフルに使っています。例えば「ノアの箱舟」の臭さ！ 漂ってくるようで、鼻をつまみながら読みました。
それから女性にしかできない表現が随所にあります。例えば、マリアがエリサベトを訪ねた時、ヨハネがおなかの中で動きまわすね。「先に赤ちゃんが気づいたのよ」と。お母さんが嬉しいと、赤ちゃんも動くじゃないですか。そういう感覚への共感が女性である私が翻訳をさせていただいた意味になったかな、と思っています。

池谷 最初、「シンボルマークを描いてください」と言われてその響きがすてきななあ、と引き受けました。シンボルを二四個描けばいいのか、と

思ったら、お話の途中の絵も、それもとくさん描かなければいけなかった。

沢 どれも素晴らしいですよ。今回、賞をいただいたのは、半分以上、絵の方だと思います。

池谷 児童書は初めてです。絵本を描くときは、二〇枚くらいの絵を一年以上かけて制作していますが、これはひと夏で、全部なげうってやりました。沢 それじゃあ、わりと勢いで描かれました？

池谷 普段から下書きはあんまりしないですね。スクラッチボードに直接描いて削ったり塗ったり削ったりしながら仕上げていきます。締切までいつまでもいじっている感じなのですが、これは見直すヒマもなかったです。

沢 私がいちばん好きなのは、ソロモンと二人の女の絵です。女性二人の赤ちゃんをめぐる絵の表情。池谷さん

の絵って、「あたたかい」って評されることが多いと思うし、私もそう思うのですが、ちょっと暗い、ブルースがあるから好きなんです。韓国で言えば恨。何か悲しみがある。それが旧約だし、マコックランの文章にマッチしていると思いました。

池谷 ありがとうございます！

旧約の物語と今の世界

沢 旧約はドラマの連続ですよ。これでもかこれでもかの試練の連続だけれども、それを乗り越えて、それでも信仰を貫いた人たちの話だということに気づいて、本当に感動しました。

池谷 旧約には憎しみとか悲しみがいっぱいあるのだけれど、今も同じように汚いことも恐ろしいこともあって、変わらない。

沢 私も途中からは、現代の話とし



「ソロモンの知恵」



楽しかったことは

池谷 動物を描くこと。

沢 もともと北海道で動物たちと暮らしてらしたんですよね。

池谷 一七年間、牛を飼ってました。その前に、大学に入ったその足で上野動物園にアルバイト志願に行きました。結婚する寸前までそれはつづけていました。私の絵の技法がスクラッチでしょう。どんどん削っていく方法だから、毛深い動物とか大好き。

沢 なるほど！

池谷 今回、こんな短期間にたくさん描くことで、自信になりましたね。私、こんなことまでできてしまった。

沢 私もですよ。こんなたくさんの文字を訳すことができた。

池谷 終わってしばらくは呆然としてました。

沢 そうそう！ しばらくは抜け殻になってました。

池谷 旧約の世界って土台のあることだから、いい加減に描けないじゃない。この時代は裸足ってことはあまりなくて、こんなサンダル履いていたとか。この時代のランプはこんなだったとか。ダビデの「石投げ紐」なんて、お話は知ってたけど、こんな紐だなんて知らなかった。本当に投げてみたくなるような紐なんだよね。

沢 そういうことを知る楽しみもありました。

た？ ああ、男の子、もう来なくなっちゃったのかあって。

池谷 そう、この子時々、普通の少年なのか、意味ありなかって記述がありますよね。それが最後まで微妙に重なっているのがいい。

好きな描写は

沢 「ノアの息子の妻は、まあいいおなかに手をあてた」っていう、この「まあいい」。あえて「まあいい」にし

りますね。この本が大賞を受賞した理由にノンクリスチャンの人も楽しめる

ということがあるのなら、訳者冥利につきます。私は歌を歌う時でも、ノンクリスチャンの人が自然に感じるものであってほしいと思っています。この本はキリスト教の本だけれども、クリスチャンでない人が読んでも絶対に楽しい本ですから。

池谷 男の子が聖書のことを何も知らないから、私もそこに立てる。一緒にそうなんだ、そうなんだと言えます。聖書の話だけじゃなくて、現代にすつと戻ってくるでしょう。それがまた心地よい。教会の中においても教会の匂いとか響きとかがする。外から自動車の音が聞こえてきたり、花をかかえたおばさんがいたり。本当によくできた本です。

沢 最後はしんみりしませんでした。

ました。

池谷 娘が今、妊婦だけれども、まさにまあいいおなかしてますよ。

沢 「年老いたヤコブの顔は、まるでロウソクのロウがとけたように、しよんぼりしている」ってとこ、どうしてそんな表現ができるのかと、感動しました。あとダビデが人々と共に踊るシーン。聖書でも知っていたはずなのに、初めて鮮やかに目に浮かびました。これ、踊りの絵もいいですよ。

池谷 踊りながら描いたところです。サンバがいいかなあとか考えながら。

沢 ラクダがげっぶとかするでしょう。ひざをがくと曲げて座り込んでう。そういうところも好きです。

池谷 よく読まない、シンボルと話のつながりがわからないかもしれませんが。何度読んでも、これがシンボルになるかなあっていうのもありました。



「おどり」

沢 なぜなぜみたいですよ。それも楽しい。

池谷 そう、いかにもってものじゃなくてね。私の意図と違うと思っても、全部できあがったら、これでよかったのか、ということがありました。

沢 池谷さんも少年と一緒になぞと書きしながら描かれた感じですね。

池谷 そうですね。

どれかひとつ物語を選ぶとしたら

池谷 男の子が踊り出す「おどり」が好きだった。聖書の世界から現実の



キリスト教本屋大賞2015 大賞受賞!!

エッセイの木 クリスマスまでの24のお話



著者 **ジェラルディン・マコックラン**
児童文学作家

訳者 **沢 知恵**
シンガーソングライター

絵 **池谷陽子**
絵本作家

好評
発売中

教会で大きな木の板をほる大工のおじさんの前に、とつぜん男の子があらわれました。せがまれて仕方なしに、おじさんは男の子に話しはじめます。世界のはじまりからイエスさまのお誕生へという物語を。

イエスさまの先祖の歴史をあらわすのが「エッセイの木」です。アドベントには毎日ひとつずつお話のシンボルをかざっていき、クリスマス待ちます。

◆A5判 上製・158頁・本体1,800円+税



喜びのメッセーシ

大賞に選ばれて光栄です。
楽しく訳しました。
おなじも子どもクリスマス
な人の楽しめる味わっ深い
物語です。ぜひ!

沢 知恵



おじさんの彫り木が
一本の木。
ていべんにたどりかた時は
喜びでいっぱいになりました。
そして 本屋大賞受賞!
ありがとうございました。

池谷陽子



キリスト教本屋大賞とは

全国のキリスト教書店員が、過去1年間に刊行されたキリスト教書から、いちばん読んでほしい本を投票形式で選ぶ賞です。2011年から始まり、2015年で5年目を迎えました。

QRコードで
簡単アクセス!



★facebookで情報発信中 「いいね!」をクリックして最新情報をGET!
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear>



日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL 03-3204-0422 FAX 03-3204-0457
■ ホームページ <http://bp-uccj.jp> ■ Eメール eigyou@bp.uccj.or.jp

ジェラルディン・マコックラン

Geraldine McCaughrean, 1951-

イギリスの作家。120冊以上の著作があり、27の言語に訳されている。児童文学にとどまらず、さまざまな読者を対象にしたその作品はすぐれた児童書に贈られるカーネギー賞はじめ多くの栄誉に輝く。

日本でも、カーネギー賞受賞作『不思議を売る男』、ウィットブレッド賞受賞作『世界は終わらない』他、多くの作品が翻訳出版されている。



世界に入って、少年が踊りだしちゃって、ラジオオラスを持ったおばさんがいて。何の意味もないような場面だけれども、雑踏の匂いや音が聞こえてくるのが印象的ですよね。
沢 「私の民を去らせよ!」です。ぞくぞくしました。訳したのが去年、岡山に引越してすぐでした。この引

沢 語りであること
小学校高学年を対象に訳しまし

まで世代を超えておすすすめします。

いました。何のあてもなく、親戚がいるわけでもない地へ、希望だけ信じて行っちゃった時に訳して、本当に勇気づけられました。約束の地をめざしていけばいいのだと。

すぐれた児童文学は、子どもたちはもちろん、大人が読むにもたえます。そうでなければ時代を超えていかない。この本を、おじいちゃんおばあちゃん

越を人生最大のバンジージャンプと言っています。小学生の子ども二人を福島原発から遠ざけたい。幼い頃からかかわってきたハンセン病療養所大島青松園がいよいよ終わりに近づいてきた時に側に行きたい、と思

た。わからない言葉がたまにあってもいいんですよ。ちょっと背伸びしながら読むのでも。
この本の魅力である語りをどう訳するかなああと考えました。普段はパソコンで文章を書くのですが、肉筆、肉声を大事にしたいと思って、広告の裏紙とかに鉛筆でぱつと殴り書きのような下訳を書きました。私にとって日本語は第三の言語なんですよね。日本語が私の根っこにないというか。ハンデもあるけど、メリットでもある。だからこれは手で書くと、すぐに決めました。二度手間で大変でしたが、満足の結果が出せたと思っています。

聖書、ミシュナ、タルムードを緻密かつ大胆に論じる

M・ハルバータル著

志田雅宏訳

書物の民

ユダヤ教における正典・意味・権威



勝又悦子

「書物の民」というフレーズは魅惑的だ。ユダヤ教の本質が分かったような気分になる。しかし、身近にユダヤ教の礼拝や学塾での学びを目にすることも、聖書以降のユダヤ教の正典を手取ることも難しい日本においては、何が「書物」なのか、いかに「書物」が扱われているのかを具体的に知ることは難しい。気鋭の論客ハルバータルによる本書は、ユダヤ共同体の中心に「書物」＝「正典」が置かれたことの意味、その結果生じる「正典」と、正典を正典たらしめる各種「権威」との葛藤の諸相をラビ・ユダヤ教からカライ派、マイモニデス、ナフマニデスに代表される中世ユダヤ哲学、カバラ、更には近現代のユダヤ教の動向まで射程に入れて論じた緻密で野心的な書である。本書で論じられる「正典」は聖書、ミシュナ、タルムードである。第一章では、聖書が「正典化」されたことの意味を問う。正典として策定されることで、「テキストから学ぶ」のではなく「テキストを学ぶ」「テキスト中心共同体」が成立し、「権威」は、かつて正典の源泉であった預言者からテキストを解釈する賢者に移る。ここに「書物の民」たるユダヤ教の原点があ

ろう。

第二章では「論争」の過程を記したミシュナが正典化されたことの意味を様々な思想家のミシュナの位置づけを分別しながら追う。忘却された細かい規律を思い出すため（回復モデル）、啓示による知識に自分たちの解釈を導入するため（累積モデル）、そして、解釈者に法を制定する権威を与えるため（制定モデル）である。これら三つのモデルは互いに影響しあひながら発展する。

第三章では教育課程の中心に置かれることになった強い「正典」タルムードと、その外の要素（トーラー、哲学、法典、カバラ他）との葛藤を追う。タルムードの理解に他の要素は必要か、という問いである。スペイン・プロヴァンス・フランスではタルムードと哲学のバランスに関して、カバラ神秘家の間でもタルムードとカバラの知識をめぐっても同様の論争が展開する。いずれにせよ、タルムードという「正典」に対して解釈を通して関わるのが「ユダヤ的」であった。しかし、ナショナル・アイデンティティが台頭した近現代のユダヤ教

は、もはやタルムードが中心にあるとは言えない。様々な代替が「ユダヤ的」として独り歩きすることに、筆者は結論でユダヤ的生における危機として憂慮する。

ユダヤ教文献の基本的知識は自明として時代、地域、思想的立場を跋扈して往々にして相反する見解が言及されるので、議論の行方をつかむにはタルムードを読むときのような集中力が必要だ（明快な訳者あとがきが良き指南となる）。しかし、突きつめれば、ユダヤ教文献と格闘する者が感じるだろう単純な問い——なぜユダヤ教ではミシュナやタルムードのような人間の議論の集成までもが「正典」となり、なぜ「正典」にそこまですごだわるのか——の周りをぐるぐる回っているのかもしれない。ユダヤ教自身にとってもこの問いは重要だったということか。

ユダヤ教だけではなく他の宗教も、哲学・解釈学、学問領域にも目配りされているのは著者の広範な守備範囲の表れだろう。

また、研究の細分化が進む昨今、本書においては、「正典」「権威」観を通してラビ・ユダヤ教文献学、中世ユダヤ哲学、注釈学、カバラ他をダイナミックに融合している点も魅力的である。結論では、近現代の具体的な教育現場での葛藤が記述される。抽象的理念の操作に終始しがちな思想家の書にあって、具体的な現場を垣間見ることがするのも嬉しい。願わくば、あともう少し、それぞれの思想家の生きた姿を感じさせる記述があると色彩豊かな理解が可能になると思われるが、それは、歴史家の仕事だろうか。ハルバータルが本書の射程から超えるという理由で書き控えている種々の論考の更なる展開が期待される。

（かつまた・えつこ 同志社大学神学部准教授）
（四六判・三四二頁・本体三五〇〇円＋税・教文館）

木版画家とカトリック司祭の神秘的合作

木版集 白い鹿

ヨゼフ・ドミヤン 版画
ヨゼフ・ドミヤン 詩
押田成人 詩

ハンガリー出身版画家の作品と、カトリック司祭の墨書詩による木版画集。私達の魂の旅路を立ち現す。A4判 上製・74頁・5400円

あなたらしく生きる

山内英子 聖路加国際病院プレストセンター長、乳腺外科部長

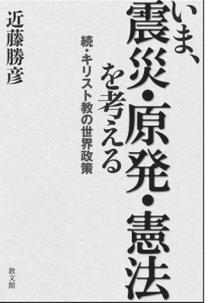
「自分らしさ」をもって人のために何ができるのか。外科医・妻・母・信仰者として、生と死に寄り添ってきた著者が紡ぐ、生き方エッセイ。B6判 並製・104頁・1080円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
http://bp-uccj.jp

祈りと伝道へ導く神学的思索
近藤勝彦著

いま、震災・原発・憲法を考へる

続・キリスト教の世界政策



森島 豊

いま、私たちは言葉を求めている。不安な時代の中で、日本を揺るがす危機的な問題に対して、キリスト者としてどのように向き合えばいいのか、信仰の言葉を求めている。本書は、日本を代表する組織神学者である近藤勝彦先生により、その強靱な神学的思索を通して現代社会の重要な問題に取り組んだもので、この要求に見事に応えている良書である。

取り組んでいる問題は、「震災」「原発」「憲法問題」という緊急の政治的課題だけでなく、「平和問題」「生命の問題」「教育問題」など、いずれも難解な課題を扱っている。どの問題にも、キリスト教信仰と神学の視点から語られている。三位一体の神を信じること、教会の礼拝を重んじることが、いま直面している現代の諸問題にどういう意味を持っているのかを明らかにし、勇気と希望を与えている。キリスト教に対するいわれなき批判に対しては、誤解を明らかにした上で、「たじろぐことのないようにすべき」（一九四頁）と、読んでいて励まされる。深刻な問題に対しても安心して読めるのは、神の確かな救いの歴史の中にあることを思い起こさせてくれるからである。

著者は、キリスト教会がなすべき現代の諸問題への取り組みを「キリスト教の世界政策」（四、三二頁）と呼ぶ。そこで一貫しているのは、神との関係である。危機の中で神の内に力の源泉を持ち、「歴史の恐怖に耐え、打ち勝つという生き方」（三五頁）へと励ましている。「礼拝はそのための原動力が与えられるときでもあります」（二五頁）。したがって、礼拝と教会の信仰を重んじ、そこで語られる聖書の言葉に耳を傾け、イエス・キリストの出来事から学ぶ姿勢が貫かれている。

著者のもう一つの特徴は、現実の問題を歴史的に整理し、問題の本質を浮き彫りにし、信仰の必要性を明らかにしてくれているところである。震災と歴史理解、原発や憲法問題など複雑で難解な事柄も、問題の所在を誰にでも分かる仕方で紹介してくれている。そこで、日本の思想的・精神的弱点を鋭く突いている。たとえば、流行語となった「絆」の意味したものが「前近代的な集落的団結への回帰を言っている」（三三―三四頁）ことや、「忘却こそが救いという道にはかならない」（三七頁）自然主義的な対応を抜け出せない日本の性質を指摘され、はっ

とさせられる。それに対して教会の信仰は、イエス・キリストの十字架の出来事を通して、創造から神の国の到来という「被造物と共なる歴史を刻まれる救済史の神」（四二頁）への信仰であることを思い起こさせるのである。

特に、震災の意味を「終末論的中間時における神の統治」からとらえる言葉は、読み応えがある（五三―五七頁）。神がともにおられる「慰め」と同時に、深い悔い改めをもとめる「警告」も語る。著者の言葉は、たとえそれが人災であろうと自然災害であろうと、神の創造のみ業に参与するキリスト者の使命があることを開眼させるのである。

本書には「教団戦責告白」について検討した神学的文章も収められている。いま日本の政府が強く右傾化している中で、日本の教会がどのような姿勢であるべきかを教えてくれる。日本基督教団の教師は必読である。

他にも、「憲法九条」「集団的自衛権」「道徳教育」「出生前診

断」「信仰と科学」の問題など、扱い難しい問題に取り組んでくれている。しかし、決して理想主義的にはならない。「現実を決して甘くはありません」（一〇五頁）という言葉が著者の姿勢を表している。その現実をとらえる眼差しは鋭く、切り込む言葉には説得力があり、最後には望みを持って祈りと伝道へと導かれる。厳しい歴史の現実を前にして、信仰の歩みの中で幸せに過ごす可能性が大きく開かれていくことを教えられるのである。

本書には、皆が聞きたい時代の難題に神学者として責任を果たそうとする著者の誠実な姿勢を感じる。いま、ぜひ読むことをお勧めする。

（もりしま・ゆたか）青山学院大学准教授・大学宗教主任

（四六判・二〇六頁・本体二〇〇〇円＋税・教文館）

新刊

聖書の世界を発掘する

聖書考古学の現在

上智大学
キリスト教文化研究所 編
●四六判並製 本体 2,000円

考古資料を通して垣間見た
旧約聖書の時代
津本 英利

●
油滴る地
—聖書時代のオリーブ油生産
小野塚拓造

●
祭儀台からのぞく
聖書時代の宗教生活
山吉 智久

●
旧約聖書にみる
埋葬習慣と他界観
月本 昭男

●
文献学と考古学
—古代イスラエル史の方法
長谷川修一
ISBN978-4-86376-045-5

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

困難な時代の労苦が語る現代への問い
楠本史郎著

北陸女学校と北陸伝道にささげた生涯 中澤正七



高橋 潤

本書は、現在北陸学院で困難と格闘中の著者によって再構成された、一九〇二年から一九四四年、献身的にキリスト教教育と教会に仕えた中澤正七の生涯である。「若い人たちも読めるように」と依頼されたところから、とても読みやすく、各章ごとに神の導きの御手を確認出来る牧会的かつ教育的配慮で構成されている。読後、神が与えてくださった宝を発見した北陸学院関係者の輪に、いつの間にか加えられて一緒に喜ぶ感動を与えられた。

中澤正七は少年の頃、父に連れられて全国を旅し、一八歳で東京の学校に入学する青年期にキリスト教と出会い、高知教会で洗礼を受けた。国家主義に傾く中で神の召命を信じ献身。植村正久と深い交流があった。植村の牧する教会で伝道者としての第一歩を踏み出したが、結婚後、自分の音楽の才能がないことで悩み、迷い、県立中学校の英語教師になる。時は、全国のキリスト教学校が経験した「文部省訓令十二号」による宗教教育の禁止という危機的状況下だった。三三歳まで、さまざまな道をさまよい一九〇二年（明治三五年）北陸女学校の主幹（今

の教頭）に就く。この日から四二年七ヶ月の間、北陸学院において生涯献身的に仕えた姿が、御言葉の土台の上に丁寧再現されている。資料室に保存されている自筆の日記やノート、二四年間の校長時代の膨大な原稿やメモという第一次資料に基づいて再構成されている。

著者は、「中澤は、日本にあるキリスト教学校とは何か、を問いつづけました。そして時代にふさわしい新しい北陸女学校を形づくりました。それは決して、金沢女学校以来の建学の精神、つまりキリスト教を捨てたものではありません。むしろキリスト教精神を土台に据え、その上に、時代に合わせた、新しい学校の形を編み出しました」（二二九頁）と記している。この中澤の問題意識は、北陸学院が創立一三〇周年を迎える年、新たな課題として与えられていると思う。しかし、北陸学院だけの問題ではなく、全国のキリスト教教育を使命とする教育機関にも同時に与えられているのではないだろうか。最も大切なことは、この問題は学校だけの問題ではなく、教会の祈りと支えがなければ進めない事柄であることだろう。中澤正七が金沢教

会の長老として伝道者としての召命をもって学校の主幹、校長として仕えた姿に、この問題の取り組みが見える。

全ての困難な時代の労苦は、神の光によって照らされて、輝いて見えることを教えられた。それぞれの時の労苦には、大切な意味があったことが見事に浮き彫りにされている。第一章から第10章まで、全ての章の最後には、聖書の御言葉が記されている。この御言葉によって、中澤正七を巡る様々な出来事が神のご計画であり「聖書の言葉のとおり」（二二七頁）であったことが再確認されている。読み進める章ごとに著者と共に、祈りをしているような喜びを味わえる。著者の導きで、全ての困難の中で生きて働く神の御業を賛美し、祈りつつ、困難が宝の輝きを放つように変化することを学ぶことが出来る。

現在、全国のキリスト教主義学校は、「今の時代には、中澤の頃とはまた違う困難があります」（二二三頁）との言葉に全ての人が共感するのではないだろうか。時代の要請に伴う教育

環境の整備と経営基盤の強化、少子化対策と生徒募集、進学実績向上と学習進歩者への対応、建学の精神の担い手と新カリキュラムへの対応、「道徳」の教科化と聖書の授業等、難問山積だ。最も大きな課題の一つは、生徒一人一人の魂の養いと福音を伝えることだ。そのために伝道と教育の狭間で建学の精神を貫く使命を与えられたキリスト教教育の担い手が与えられることを祈る。そのためには、全国の教会の祈りが集められなければ、この課題を乗り越えることはできないに違いない。

「北陸女学校の発展は、教会にとっても大きな力」（二一〇頁）となった。ここに、明日への希望が与えられている。（たかはし・じゅん 日本基督教団中京教会教師・名古屋学院中高校長）
（B6判・二五二頁・本体二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



新刊
**宗教改革
500周年と
わたしたち
3**

ルター研究 別冊3号

ルター研究所 編

●A5判並製 定価：2,000円＋税

三つのE
一歩たるべきエキュメニズムの
プログラム
江口 再起

アウグスブルク信仰告白の
ギリシャ語訳
鈴木 浩

共同の宣教に参与する
宮本 新

アウグスブルク信仰告白に見る
信仰義認とエキュメニズム
石居 基夫

『アウグスブルク信仰告白』と
『和協信条』の聖餐論
立山 忠浩

『アウグスブルク信仰告白』五、
七、八条に見る教会とその職務
江藤 直純

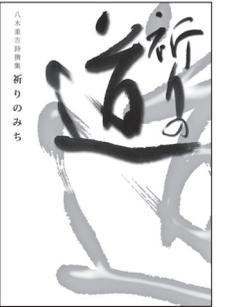
『アウグスブルク信仰告白』
第一六条の
「正しい戦争を行う」について
鈴木 浩

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

天を見上げる詩人
八木重吉作、森重ツル子編

八木重吉詩撰集 祈りのみち



林あまり

キリスト者の多くが、一度は目にしたことのあるだろう八木重吉の詩。「さて あかんぼは なぜに あん あん あん あん なくんだろうか」で始まる、「みんなもよびな」など、まるで誰かの朗読でも聴いたかのように、耳にも残っている気がする。

このたびは八木重吉の詩撰集『祈りのみち』が出版された。七十余の詩に、カラー写真が添えられて、一頁一頁をじっくりと味わうつくりとなっている。二十九歳で肺結核で召された重吉の、短かった人生の日々から、きらめく滴のようにしたたり落ちる詩たちだ。

たいいていの人は、この世の命に限りがあることを知っていても、普段はあまり気にとめずに暮らしている。それはそうだが、毎日、死を意識して生きるなんて、しんどすぎる。

重吉は病を得てからは常に死を意識しての生活だったろう。そこから「長い命ではないとおもえば、これから一生懸命に力をつくして神様を信じ人を愛してゆこう」といった詩が生まれる。

改めて重吉の詩に触れて思ったのは、構図の素晴らしさだ。

くろずんだ木

くろずんだ木をみあげると

むこうでは わたしをみおろしている

おまえはまた 懐手しているのかといっている

森へはいりこむと

いまさらながら

ものというものが

みいんな

そらをさし

そらをさしているのにおどろいた

この二編の詩は、高さを持つ。木を見上げる自分とその自分

に語りかける木、ただもう高さにおどろく自分。

月

月に照らされると

うたを歌いたくなる

月のひかりにうたれて

花びらがこぼれてゆくような うたがわく

上からやさしく照らししてくれる月。光を受けとめた自分からは、うたがわきあがる。うたは静かに風につけて散ってゆく。

このような高さを持つ構図は、重吉の精神と深くかかわるものではないか。そう感じて次の詩を読むと、すべてがひとつに結ばれる。

基督（キリスト）

いかなる時でも 基督がみているとおもうべきである
いかなる時も 基督を仰いでいるべきである

喜びの時も 怒れる時も 憎んでおる時ですら

忙しい時も 暇な時も 出来るなら夢の中ですら

基督と離れる時、すなわち命から離れる時である

高き処、それは基督のおられる天。病床にあつても主を見上げ続けた詩人だった、とこの一冊は教えてくれる。

クリスマスプレゼントなどにもぴったりだ。受洗された方への喜びの記念としてもふさわしいと思う。

(はやし・あまり) 詩人、日本基督教団頌栄教会員
(A5判・八四頁・本体二〇〇円+税・キリスト新聞社)



マタイによる福音書

13章から16章の説教

林 勵三
Reizo Hayashi



神の国のたとえ
信仰告白への道程

要点をとらえた小説教
デボーションとして最適

四六判

定価 [本体 1,700 + 税] 円
ISBN978-4-86325-091-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

よつこそ、心躍る師父たちの「食卓」へ！
 ジュセツペ三木一著
 佐藤弥生訳、監修者ゲオルギイ松島雄一

師父たちの食卓で 創世記を味わう 第1章〜第3章



大頭真一

六世紀から一七世紀まで「聖書の『釈義の鎖』」とでも訳すべきジャンルの書物が存在していたことを、寡聞にして本書で初めて知った。ギリシャ教会とシリア教会に多く見られたもので、頁の中央に太い字で聖書のテキストが書いてあり、まわりに師父（教父）たちの主な解釈が書いてある、という。教会は、聖なる伝統の中で聖書を読んで来た。つまり、聖書を味わうには、孤独な天才が近代批評学を駆使するようにはなく、師父たちとともに食卓につくことが正道だと考えるのである。聖書の物語は、教会の物語と切り離すことができないと言ってもよいだろう。

本書の著者ジュセツペさんの試みは、「聖書の『釈義の鎖』」を自分なりに再現することにあつた。ちがいは、ジュセツペさん自身の体験や現代の文化や西洋の歴史などに対する自身の思いを含めたところにある。実はこのちがいが、本書を親しみやすいものになっている。師父と共に聖書を読むときに「喜んで家を出て、外の草原に座ってすばらしい景色を眺めているような

思いとイメージ」（二〇頁）が浮かぶというジュセツペさんと同じ景色を読者である私たちにも彷彿させるのだ。

そんな景色の中で、「自分から出て」世界を創造した神の愛を「愛する対象に自分を渡す」愛だと語る偽ディオシニウス・アレオパギタを右隣の席に、「世界が創造される以前において、神が世を愛さなかった『時』はない」（二六―二七頁）と耳打ちするシリアのイサクを左隣の席に感じながら食事が始まる。八年がかりで整えられたこの食事を、急いで読み進めてはならない。食事の目的は食事そのものにあるのであって、単なるカロリーの摂取ではないからである。師父たちに聞きながら、ジュセツペさんも口を開く。「神の似姿は人間の本質ではなく人格にあります。つまり、選択や生き方により形成される人格という次元にあるのです。」（五六頁）といったつづばやきには、東方神学が躍動している。生きることは旅することである。神のイメージに造られ た私たちは、そのイメージの完成を目指し続ける。そんな旅する姿こそが神の似姿なのである。

本書は、創世記の最初の三章を思い巡らしたものである。けれども著者の思いめぐらしは、師父たちとともに常にハリストス（キリスト）へと向かう。そのように、ハリストスが教え（ルカ24・27）、その教えをさらに教会が積み重ねてきたからである。アダムとエヴァが裸であつたことは、師父たちによれば、彼らは「栄光を着ていた」のであり、「神が彼らをお創りになった際の、あの愛に彼らはくるまれていた」という。これだけでも私たちは神の狂おしいほどの愛にめまいを感じる。けれどもジュセツペさんは、容赦してくれない。「にもかかわらず彼らの栄光はハリストスに身を寄せる哀れな罪人の栄光に及ばないのです。」と。ああ。

ジュセツペさんは、自分について多くを語ることを好まないが、彼が「どんな人かと思議に思う人のために」（二二頁）少しだけ触れておく。一九四三年ローマで生まれたイタリア人で、ローマ・カトリック教会の修道士として来日。その後、修道会を退会、結婚、やがて日本人となった。二〇〇五年に正教会の信徒になる。知多半島で「聖書を読む会」を主宰している。

正教に関心を抱きつつも、完全な門外漢である評者であるが、実は本書の誕生の小さなきっかけになったことを喜んでいる。監修者の名古屋ハリストス正教会松島雄一司祭には、数年前から初歩的な赤面するような質問をしては、優しくご指導していただいている。あるとき司祭のお知り合いの方で出版を考えておられる方がおられると聞き、ヨベルの安田社長をご紹介した次第。原稿を読んで安田さんの心が躍った結果が本書である。

評者は、本書が正教の方々だけの独占となることを惜しむ者である。私たちは、世界で初めて聖書を読む人間のように振る舞ってはならない。けれども師父たちの世界は、香炉とイコンの奥にあつて近づき難い。ジュセツペさんは、すべてのキリストを慕う者たちに、その扉を開いて、覗かせてくれるのである。正教徒の本だから、難しいのではないか、とか「正統的」カトリック信仰やプロテスタント信仰が危険にさらされるのでは、といった心配は無用である。安心して心躍る師父たちの食卓に加わっていただきたい。

（おおず・しんいち）日本イエス・キリスト教団 明野キリスト教会教師
 （A5判・二七二頁・本体三〇〇円＋税・ヨベル）

今この時、日本国憲法の尊さを問い、思考する良書
阿久戸光晴著

専制と偏狭を 永遠に除去するために 主権者であるあなたへ



松原 望

「ドイツは歴史上何人も偉大な倫理学者を生んだが、二度も世界大戦争を引き起こしたのもドイツで、ドイツ人は頭で考えなければ善悪が分からなかったのだよ」。恐縮だが、私の父の言葉のワンフレーズを思い出す。父は伝統色の強い奈良県橿原の出でありながら、少年時代に魂が洗われ洗礼を受けたが、家貧しくして高等教育を受けられず、自ら学んで古書籍商になり戦前の神田神保町で哲学書などを扱い、当時新進気鋭の神学者であった熊野義孝にふつうでは入手できない本を見計らって納めていた。

さて、阿久戸光晴著『専制と偏狭を永遠に除去するために』は、いうまでもなく日本国憲法の前文からの題名だが、まさに「頭」で読まず「魂」で読むべき本である。それが伝道者でもある著者の本当の意図であり、さもなければ本書に大きな意味はないであろう。その理由は簡単で、日本国憲法は単なる政治理念の文書ではなく、アメリカ独立宣言にも宣明された「プロテスタンティズム」という信仰上のマニフェストに由来し、魂の改革者の情熱を今も感じることができるところである。「人民

の人民による人民のための政治」は、リンカーンの独創だと思う人は多いだろうがそうではない。英国の信仰上の改革者ウィクリフのことはであって、われわれはその太く長い流れの最下流にいる証人なのである。はたして何ゆえにわれわれは憲法を守るのか。改憲派が右翼だからか、安倍晋三は戦争勢力だからか。そのような理由だけでは甲論乙駁でそれこそ負けてしまうであろう。

本書は伝道者で法学・社会学が専門でもある著者が信仰に導かれて書いた書であり、それだけに、その精神を一言でいえば、「国際関係」「国家と個人」「価値」「人権」「教育」「社会形成」など挙げられた目下の難しい諸課題も、神に導かれることによって良き道に就く政治的ヒントを見出すことができることを読者に伝えようとしている。ユダヤの民の出エジプトを導いたモーセやヨシヤは、山なす困難の中で格別に頭がよかつたとか指導力に優れていたことが偉大なのではなく、神に導かれて道を示されたことの方が、私たちの信仰にとって偉大に思われるのである。すべて、導くよりも導かれたのである。著者

が理事長をつとめる聖学院大学のモットー「神を仰ぎ、人に仕う」もまさにこの精神であり、その心で本書を読めばその温かさが伝わってくるであろう。

著者は本書を日本国憲法を視座とした社会評論として書き、明快で読みごたえがあるが、中でも注目すべき二点を挙げよう。民主党の綱領が「一神教的な唯一の正義を振りかざすのではなく、多神教を受容する文化」を指すとしていることをとりあげる（第三章）。これは広く流布浸透している大変な誤解で、この排除主義を種にする文筆の人々も多く、今後は大きな障害になる。寛容は大切である。しかし、わが多神教という民族宗教は、少しも寛容ではなく、むしろ無自覚に、内に専制と偏狭を外にそれを先頭に押し立てアジアを侵略し強制した歴史は、根元からは総決算されていない。

もう一点は、歴史的に教育が始まったのは小学校でも幼稚園でもなく大学からであることである（第V章）。この指摘は

ジュセツペ・三木一
佐藤弥生訳
ゲオルギイ・松島雄一監修



師父たちの食卓で 創世記を味わう 第1章〜第3章

古代、中世の教会師父（教父）たちは、伝統という食卓に盛られた聖書という「ごちそう」の滋味をこよなく愛した。それは、聖書の「成立年代」歴史的背景「テクニク」研究など、いわば「レシピー」にはかり目を向ける近代聖書学が置き去りにした、「ごちそう」そのものへの驚くほど自由なアプローチである。

●A5判・二七二頁・二二〇〇円

好評既刊の本



西谷幸介著 青山学院大学教授 十字架の七つの言葉 キリスト教信仰入門

キリスト教が説く十字架の中心的な意味を理解する「十字架でイエスが最後に語った七つの言葉」に焦点をあて、キリスト教をほとんど知らない方にもその真髓が理解できるようにした入門書。テキストに最適な内容。

大学教授で運営の責任にある著者にふさわしい。universityはラテン語universusに由来し「すべての人にかかわる」「根源的」「全体の」「普通の」「共同体の」を意味し、そこから自由な「組合」が自生的に発生した。それが大学である。その時の権力と支配に屈することのない、永遠の存在が大学であり、書名のごとく「専制と偏狭」を乗り越える知恵の原点は大学にある。大学こそ「日本国憲法」の精神とベクトルを同じくする。この本はこのように読むべきものである。
(まつばら・のぞむ) 聖学院大学大学院政治政策学専攻科客員教授
(新書判・二〇二頁・本体二六〇〇円＋税・聖学院大学出版会)

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp 税別表示
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

偉大な指導者を育んだ祈りと信仰の生涯
大塚野百合著

スザンナ・ウエスレーものがたり ジョン、チャールズ・ウエスレーの母

恵泉女学園大学名誉教授の大塚野百合先生が永年にわたり温めてこられた企画である、一八世紀の英国にメソジスト信仰復興運動を起したジョン・ウエスレーと、多くの賛美歌を作った応援した弟チャールズのほか一七人の子供たちを産み育てた母、スザンナ・ウエスレーにスポットを当てた本書『スザンナ・ウエスレーものがたり』を書いてくださいましたことは感謝であります。

これまで日本語で書かれた伝記は、教文館から一九三六年に出版された田中亀之助牧師による『家庭宗教の建設者スザンナ・ウエスレー』一冊だけでした。一九七五年に偶然、私はバプテスト教会の女性向け雑誌『世の光』の誌上に、大塚野百合先生が八回にわたり「教育者としての母、スザンナ・ウエスレーについて」を書かれていた文章を見つけました。

ある日、経堂の牧師館を訪ねてくださった先生に、私は一八世紀の混乱した英国をメソジスト信仰復興運動により救ったジョンとチャールズの母スザンナ・ウエスレーについて、同じ女性の立場からは是非何か書いてくださいとお願いをしました。

スザンナウエスレー
ものがたり



大塚野百合

深町正信

英文学者・教育者である大塚先生は、『真実を追って』『生きがいの人生論』『老いについて』その他数多くのご本を書かれた後、近年は賛美歌、聖歌、唱歌、ゴスペルの作詞・作曲家の生涯等、私たちの信仰を深め、強めるご本を次々に出版されてきました。また、『ヘンリー・ナウエンのスピリチュアル・メッセージ』『出会いのものがたり』『あなたは愛されています』『感動ものがたり』『主われを愛す』ものがたり』等、数多くの信仰の良書も出版されています。日本キリスト教文化協会はこれらのことを高く評価して、先生には二〇〇四年度のキリスト教功労賞が授与されました。

そのお祝いの席で、私は再度大塚先生に、一人の女性の立場から、スザンナ・ウエスレーに関する書物を是非書いて頂きたいと申し上げました。ついに、念願が叶ってこの素晴らしいご著書が出版されたことを深く感謝するものです。このために大塚先生は一九九七年にオックスフォード大学から出版された『スザンナ・ウエスレー全文書』を取り寄せて、編者のチャールズ・ワレイス氏の緻密な研究の成果である文書その他について

て詳しく読み解かれ、研究を深めて、このたび『スザンナ・ウエスレーものがたり』を書き上げてくださいました。

永年にわたる英文学者としての研究実績とご経験に裏付けされ、敬虔な信仰者としてのご生活に祝福され、本書は魅力溢れた評伝となっています。

本書は一四章からなり、第1章 激動の英国史、第2章 スザンナの父サムエル・アンズリーと友人バクスターとデフォー、第3章 夫サムエル・ウエスレーとの出会い、第4章 夫と妻、第5章 長男サムエルと娘たち、第6章 スザンナの手紙、第7章 スザンナとジョージ・ハーバートの詩、第8章 スザンナの信仰、第9章 ヘティの悲劇、第10章 ジョン・ウエスレーの渡米と回心、第11章 チャールズ・ウエスレーの回心、第12章 チャールズ・ウエスレーが作詞した賛美歌、第13章 スザンナの晩年と召天、第14章 「わが魂の恋人、イエスよ」と罪の問題、そして終わりに、スザンナ・ウエスレー関連年表と

本書に使用した文献が記されています。

「あとがき」で先生が書かれた、スザンナがどのように霊的に、知的に、信仰的に優れた女性であり、如何に主を賛美する女性であったかを深く知らされたという言葉に、私は思いを同じくしました。今日の社会と時代の中でこの良書を読んでくださることを心から願うものです。

(ふかまち・まさのぶ) 東洋英和女学院院長
(四六判・二四八頁・本体二四〇〇円＋税・教文館)

大和昌平著 (東京基督教大学教授)

ヨベル新書033

牧師の読み解く般若心経

牧師の読み解く般若心経



「空とは何か?」

とても分かり易い仏教の入門書であり、優れたキリスト教入門書。村上英智師(真言宗御室派)本書は、第一にとても分かり易い仏教の入門書であり、第二は優れたキリスト教入門書である。第三に上質な般若心経の解説書。宗教は生きるとし生けるものを幸せにする責務があることは同じである。●三〇四頁・一、二〇〇円

好評既刊の本

大和昌平著 ヨベル新書008

追憶と名言による キリスト教入門

仏陀、親鸞、孔子らの名言を追慕し、キリスト教信仰で読み解いた希有な入門書であり、著者の幼き日の歩みをキリスト教との出会いを重ね合わせた信仰的自伝ともいえる。

●新書判・152頁・900円

山口勝政著

閉塞感からの脱却 日本宣教神学

宇田進師・推薦 現代の宣教課題に関する注目すべきガイドブック! 聖書が告げるキリストの福音は、「真空の状態」の中で宣べ伝えられるのではない。現実には置かれている時間・空間の直中に生きる人々に届けられるものである。●A5判・1,800円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.

info@yobel.co.jp 税別表示

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1

TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

*自費出版の専門出版社*資料・星



第3位

礼拝の祈り

手引きと例文

鈴木崇巨●著

1,512円(教文館)

牧会祈禱と献金祈禱、招詞の例文を豊富に収録。これまででありそうでなかった、教会で役立つ祈禱集。



第2位

天の国の種

マタイによる福音書を歩いて

バーバラ・ブラウン・テイラー●著

平野克己・古本みさ●訳

2,376円(キリスト新聞社)

米国で最も愛されている聖公会の女性司祭の説教集。おどろきを語るように、聖書の物語の中へ引き込み、心を燃やさせる。

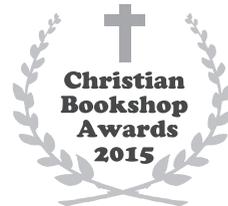


書店にて
フェア展開中!

第5回

2014年1月~12月に出版されたキリスト教書の中から全国のキリスト教書店員が“お薦めする本”の大賞が決定しました。

キリスト教本屋大賞 2015



主催:キリスト教出版販売協会

全国のキリスト教書店員が選んだ

いちばん読んでほしい本

【選出方法】

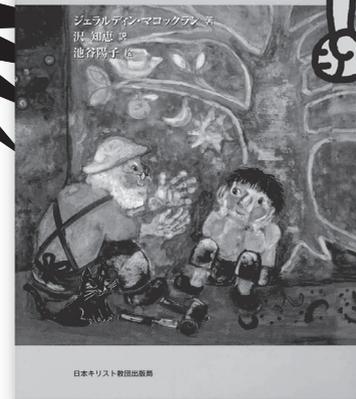
ノミネート10作品の中から決戦投票を行い、(1位=5点、2位=4点、3位=3点)合計得点を元に大賞を選出しました。



第1位

エッセイの木

クリスマスまでの24のお話



エッセイの木

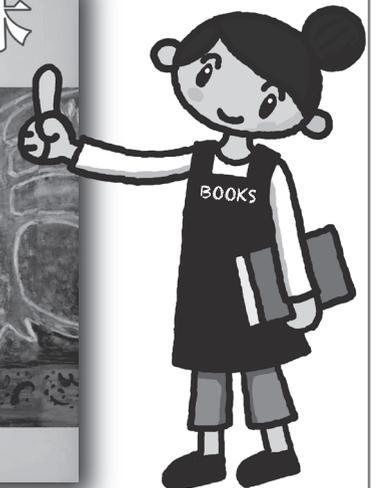
クリスマスまでの24のお話

ジェラルディン・マコックラン●著

沢 知恵●訳 池谷陽子●絵

1,944円(日本キリスト教団出版局)

児童文学の名手が紡ぐ、「アダムとエバ」から「イエス」に至る24のストーリー。



(※表示価格は、8%税込価格です。)

- 4位** 天路歷程 — 天の都をみざして
ジョン・バニヤン●著 メアリー・ゴドルフィン●再話 ロバート・ローソン●画
1,620円(キリスト新聞社)
- 5位** ハリエットの道
キャロル・ホストン・ウェザフォード●文 カディール・ネルソン●イラスト さくまゆみこ●訳
1,944円(日本キリスト教団出版局)
- 6位** 虹の約束 — 小島誠志説教集 小島誠志●著 2,052円(教文館)
- 7位** アンが愛した聖書のことば — 『赤毛のアン』を大人読み 宮 葉子●著
1,188円(フォレストブックス)
- 8位** 美しい大地は フォト・ソングブック
桃井和馬●写真 陣内大蔵●選詞 Ensemble DUMAGUETE●演奏
2,160円(日本キリスト教団出版局)
- 9位** マザーテレサ 来て、わたしの光になりなさい!
ブライアン・コロディエチュックMC●編・解説 里見貞代●訳 2,808円(女子パウロ会)
- 10位** 旧約聖書の水脈 並木浩一著作集3 並木浩一●著
4,320円(日本キリスト教団出版局)

【キリスト教出版販売協会加盟書店】

北海道キリスト教書店
善隣館書店
仙台キリスト教書店
恵泉書房
教文館
聖公書店

ABC(アバコブックセンター)書店
待晨堂
キリスト教書店ハンナ
パイブルハウス南青山
横浜キリスト教書店
清光書店
静岡聖文舎

名古屋聖文舎
京都ヨルダン社
大阪キリスト教書店
堺キリスト教書店
神戸キリスト教書店
広島聖文舎
徳島キリスト教書店

松山キリスト教書店
北九州キリスト教ブックセンター
新生館
キリスト教書店ハレルヤ
沖縄キリスト教書店



QRコードで
簡単アクセス!



『いいね!』をクリックして
最新情報をGET!

<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear>

本屋さんを選んだ お勧めの本

沖繩キリスト教書店 金城芳朗

『ペットも天国へ行くの?』

井上彰二著



900円+税
ヨベル

この本を読む前は、「神さまのもとにあの子は召されて、きつと幸せに暮らしているんだ」と信じていても、その根拠となる聖書箇所を見つけないことができずとても苦しんでいました。この本には、動物が人間と同じように、神様に愛され、天国に行って幸せになれることが聖書を根拠に丁寧に書かれ、また、神父様・牧師先生方の体験や考えも記載されています。

著者はこの本の中で、神様は「一羽の雀にも目を留められ、居場所がなければつくってくださる方、だから安心していいんだ」とも伝えてくれます。私自身、この本を読んでたくさんさんの慰めの言葉を発見でき、嬉し泣きしてしまいました。私と同じように苦しかったり、嘆き悲しんでいる方にとつて、きつとこの本が神様からの慰めの贈り物になるのではないかと思います。

『救われるのはだれか』

粕谷甲一著



1,200円+税
女子パウロ会

センセーショナルなタイトルですが、リジューの聖テレジアを彷彿とさせるような、とても素朴で穏やかな文章で、心にスツと入ってくる本です。この本は、クリスチャンだけが救われるのか、クリスチャンではなくても、神さまのみ心にならなっている人はたくさんいるはずなのに……あの人たちは、天国には行けないの? そんな疑問を持った方にお勧めです。

著者はカトリックの神父様ですが、カトリックの考えだけでなく、プロテスタント、仏教の禅の思想など幅広く好意的に取り上げられています。同時にキリスト教の負の歴史もしっかりと述べられ、読み応えがあります。

沖繩キリスト教書店

〒901-2131 沖縄県浦添市港川2-25-1

TEL&FAX: 098-877-7283

E-Mail: okinawachs@yahoo.co.jp

清光書店 柏川玲子

『いひつじたちのABC』

山下智子・絵
池谷陽子・絵

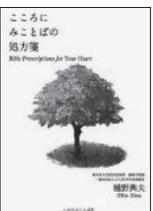


1,400円+税
日本キリスト教団出版局

本書は旧約聖書に登場する人物や事柄についてABC順に楽しく読めるキリスト教入門エッセイです。Aはアダム、Bはバベル、Cはカインなどお馴染みの人物や事柄はもちろんです。あまり知られていなくても神様を信じて素敵に歩んだ人々や、神様のさまざまな愛の働きに関する事柄を、AからZまで26のことばをテーマにして書かれています。山下智子さんの優しい語りのエッセイに、池谷陽子さんの心温まるイラストが旧約聖書の世界を楽しく案内してくれます。

『いんじみんじの処方箋』

樋野興夫著



1,000円+税
いのちのことば社

本書は「がん哲学外来」を開設された樋野興夫医師がご自身の支えでもある聖書のことばを通して語られた「みことばの処方箋」です。患者さんやご家族と対話し「ことばの処方箋」を伝えてきた樋野医師が、読み手に寄り添います。「どう生きるか」をあたたかい「ことば」で語りかけてくれます。どなたにもよりよく生きるヒントになる一冊です。

清光書店

〒951-8114 新潟市中央区営所通1番町313

TEL&FAX: 025-229-0656

既刊案内 (2015年8月～9月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
大塚野百合	スザンナ・ウェスレーものがたり —ジョン・チャールズ・ウェスレーの母	四六	248	2,400	教 文 館	8/10
M. シュレーマン著 棟居洋訳	ルター の りんご の 木 —格言の起源と戦後ドイツ人のメンタリティ	四六	332	2,700	〃	8/10
キリスト教史学会編	戦時下のキリスト教 —宗教団体法をめぐる	四六	200	2,200	〃	8/15
近藤勝彦	いま、震災・原発・憲法を考える —統一・キリスト教の世界政策	四六	206	2,000	〃	8/15
W.ブルックマン著 吉村和雄訳	詩 編 を 祈 る	四六	184	2,000	日本キリスト 教 団 出版 局	8/20
楠本史郎	中 澤 正 七 —北陸女学校と北陸伝道にささげた生涯	B 6	152	1,200	〃	8/20
カール・バルト著 吉永正義訳	知 解 を 求 め る 信 仰 —アンセルムスの神の存在の証明	A 5	240	2,800	新 教 出 版 社	8/31
門叶国泰	説 教 聴 聞 録 —ローマの信徒への手紙	新書	304	1,000	ヨ ベ ル	8/9
田澤雄作	メディアにむしばまれる子どもたち —小児科医からのメッセージ	四六	202	1,300	教 文 館	9/15
G.S.サンシャイン著 出村彰/出村伸訳	はじめての宗教改革	四六	348	2,400	〃	9/20
大嶋重徳	若者と生きる教会 —伝道・教会教育・信仰継承	A 5	114	1,200	〃	9/20
大塚野百合	「きよしこの夜」ものがたり —クリスマスの名曲にやどる光	四六	232	2,300	〃	9/20
關岡一成	海 老 名 弾 正 —その生涯と思想	A 5	574	6,000	〃	9/30
山北宣久	一 笑 懸 命	四六	136	1,200	日本キリスト 教 団 出版 局	9/15
山根道公編・解題 小野寺功解説	井上洋治著作選集2 —余白の旅と —思索のあと	A 5	242	2,500	〃	9/18
山内英子	あなたらしく生きる	B 6	104	1,000	〃	9/25
宮平望	ヨハネの黙示録 —私訳と解説	A 5	308	2,300	新 教 出 版 社	9/1
ウィリアム・ウィリモン著 宇野元訳	翼を持つ言葉 —説教をめぐるバルトとの対話	A 5	460	5,500	〃	9/20
アレクサンドラM.コピルスキ著 北垣宗治訳	近代化への挑戦 —バイルートのアメリカン大学と京都の同志社	A 5	280	2,800	〃	9/30
八木重吉・作 森重ルツ子・編	八木重吉詩撰集 —祈りのみち	A 5	84	1,200	キリスト新聞社	9/7
木村利人	戦争・平和・いのちを考える —しあわせなら態度に示そうよ!	A 5	112	1,000	〃	9/18
石居基夫編著 W.キッペスほか著	スピリチュアルベ インとそのケア	A 5	212	1,600	〃	9/18

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・I771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲32 千葉カシオセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kristokyoushoten@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/inev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjorden@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2015年12月号

特集 教会は何を・いかに宣教するのか

寄稿者 篠原基章、西岡義行、本田哲郎、

加山真路、金子千嘉世

キング牧師の大胆な非暴力

ジョン・デア

長老会神学大学校教授会声明

好評連載 レヴィナスの時間論 (内田樹、南島キ

リスト教史入門 (二色哲) / Christian Icon (八

木美穂子)、ことはの履歴書 (佐藤優)、詩篇

の思想と信仰 (月本昭男)、他

A5判・本体 588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

実践する神秘主義

普通の人たちに贈る小さな本

イヴリン・アンダーヒル著

／金子麻里訳

誰にでも届く明晰な言葉でキリスト信仰の霊性を再解釈した名著。今なお広く読み継がれている古典。 230頁・本体2100円



編集室から

二〇一五年一月と三月、日本基督教団信濃町教会にて中堅の新約聖書学者による講演会とシンポジウムが行われました。主
究は、新約聖書の学問的探求と、教会の歩みがいかに手を結ぶ
か。先日、その講演と発題の全文がインターネット上に公開さ
れました (<http://bp-ucj.jp/tokuseisu/2015sympo.pdf>)。

今回この記録を読み、教えていただくことが多かったので
すが、ここでは、廣石望先生(立教大学教授)の講演のごく一
部をご紹介します。

講演の中で廣石先生が取りあげた本の一冊が、先頃チャーリ
ツヒ大学神学部を引退した組織神学者インゴルフ・U・ダルフ
ェルトの『無償で——人間の創造的な受動性への想起』でした。
題名からして、たいへん印象的です。

「何ができるか」を指標に人を序列化し、自分を他者の上に
置くこととする、私たち。この「行いの法則」(ロマ三・二七)

を、ある方は、人にかげられた「呪い」だと言います。

この「法則」に対抗して、ダルフェルトは、人間が生を「受
けて」初めて存在するという事実、そして人は(神を含む)他
者から可能性を「賦与されて」初めて大きな創造性を発揮する
ということに注目します。つまり人は本質的に「根源的受動
性」を有するということです。このダルフェルトのキーワード
を、廣石先生は、プロテスタント原理の「聖書のみ」「恵みの
み」の今日的解釈へとつなげていきます。

論旨を追ううちに、「信仰義認」の教理が、私の中で生き生
きと動き出す気がしました。うれしかったです! 「イエス・
キリストを信じることにより、信じる者すべてに神の義が与え
られる」(ロマ三・二二)とは、人がこの「根源的受動性」を
想起し受け入れる時に、自己の偶像化から解放され、再生する
ことを言っているのかな、と思いました。

(土肥)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

霊性神学入門

小高毅



● 四六判 260頁・本体2,200円
キリスト教の霊的生活における理論と実践について、これまでのカトリックの修徳・修行論を振り返りながら、多面的に考察し、その今日の意味を説く。

アシジの聖フランシスコ 伝記資料集

フランシスコ会
日本管区訳・監修



● A5判 820頁・本体7,800円
中世最大の聖人に関する最初期の証言を集めた源泉資料集。チエラノのトマス、聖ボナヴェントウラによる聖人伝や、文学作品として名高い『小さき花』など8作品を収録。

神が美しくなられるために

神学的美学としての実践神学

R・ボーレン

加藤常昭訳



戦後ドイツの霊的・実践的閉塞感が漂う教会に、神の言葉の神学を継承しながらも、聖霊論的なパスベクティヴによる新しい神学の道筋を指し示した画期的な名著。

● A5判 400頁・本体4,400円

好評既刊

F・G・イミンク



加藤常昭訳『信仰論——実践神学再構築試論』
神の言葉の神学の系譜に立ち、聖霊による神の内在に着目し、人間の信仰生活の主体性を展開させる意欲的な試み。現代オランダを代表する改革派神学者による徹底した思索の書。

● A5判 480頁・本体5,000円

日々の祈り 手引きと例文

鈴木崇巨



● 四六判・196頁・本体1,500円

毎日の暮らしの中で、何を、どのように祈ったらいのでしょうか？ 願い事や感謝ばかりを祈っていませんか？ 話しかけるように自由に祈り、「賛美」することを神は待っておられます！

好評既刊

『礼拝の祈り——手引きと例文』 ● 四六判 196頁 本体1,400円
丁寧な祈りの手引きと、牧会祈禱と献金祈禱、招詞の例文を収録。

信じない人のためのイエス入門

宗教を越えて J・S・スポング著／富田正樹訳

著名な元聖公会主教が、教会の内外にいるすべての人に贈るイエス入門。これまでの聖書の読み方はどこが間違っていたのか？聖書学の知見に基づいた新たな読み直しから浮かび上がるイエスとは、そして神とは誰か？



旧約聖書入門2 現代に語りかける父祖たちの物語

大野恵正著 旧約のメッセージを滋味豊かにかつ学問的に正確に解き明かす公表シリーズ。

既刊 旧約聖書入門1 現代に語りかける原初の物語 ◆本体1800円

11月20日 ◆B6変・本体1900円

ポスト・フクシマの神学とフォーサイスの贖罪論

川上直哉著 【大森講座29】 「犠牲」観念を含む贖罪論は原発事故に苦しむ福島で何を意味するかと問いつつ、フォーサイスの救済論、社会倫理等対話する。新たな神学の出発を告げる書。

好評発売中 ◆四六判・本体1300円

翼をもつ言葉

説教をめぐるバルトとの対話

ウイリアム・ウイリモン著／宇野元訳
実践神学者ウイリモンが、バルトの説教および説教論と正面から取り組み、時にはバルトを批判しながら、現代における説教者のありかたを徹底的に考察した大著。深い洞察と励ましを与えられる書。

好評発売中 ◆A5判・本体5500円



逆説から歴史へ

バルト神学におけるキリスト論的思惟の変貌

八谷俊久著（はちや・としひさ氏は岡山信愛教会牧師）

生成と展開が示すバルト神学の核心

初期の『ローマ書』における逆説的キリスト論から後期の「和解論」における新たなキリスト論の構想に至る、巨大な神学的転換の理路を精密に解明すると共に、バルトが果たし得なかった新たなキリスト教倫理をも遠望する労作。「旅人の神学」としてのバルト神学。

◆A5判・363頁・本体3600円



好評発売中